



使用料改定に向けた情報発信力の強化

はじめて！うすい&おすいです



1 背景

春日井市公共下水道事業では、18年間据え置いてきた使用料について、令和3年3月検針分（新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急措置として、令和2年12月検針分からの改定より延期）及び令和4年3月検針分からの2段階において、使用料単価 100 円/m³を 150 円/m³に改定することが決定しています。

この使用料改定は、改定率が大きく、市民生活及び企業活動等への影響が大きいにもかかわらず、新型コロナウイルス感染症拡大により対面での行政活動が制限されてしまったことから、いかに多くの方に市の広報誌やホームページを見ていただくかが課題となりました。

2 目的

使用料改定に至るまでの、経営戦略の策定に伴う上下水道事業経営審議会における審議内容や、下水道の役割とその重要性などについて、市が発信する情報に付加価値を持たせ、より多くの方に伝えることで、下水道への関心を高め、使用料改定への理解につなげることを目的とし、下水道を見せる（魅せる）ための取り組みとして、積極的な広報戦略を行いました。

3 内容

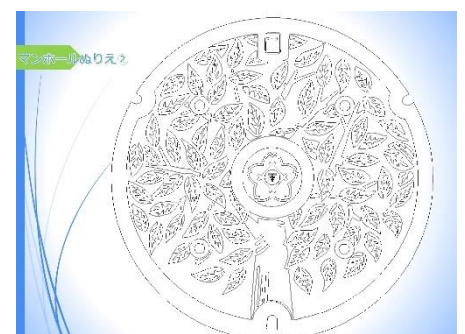
(1) 「あなたの手で彩りを！マンホールぬりえ」

普段は目に留まることが少なく身近に感じにくい存在である公共下水道について、まずは関心を持ってもらうためのきっかけとして、また、新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛要請期間を、少しでも明るく楽しく過ごすための1つのツールとして、マンホールぬりえを作成し、下水道の役割や仕組みの説明と併せて、ホームページに公開し、その取組について、新聞にも掲載していただきました。

第1段 (R2.4.6～)



第2段 (R2.5.1～)



(2) マスコットキャラクターうすい&おすいデザイン募集

下水道に親しみを持ち、くらしを支える下水道の大切さについて理解を深めていただくことを目的に、「うすい&おすい」と名付けたマスコットキャラクターのデザイン募集を行いました。



全国から 494 件の応募があり、『下水道の日』に伴う市役所での下水道に関するパネル展示コーナー及び市の主な公共施設に設置した投票箱への直接投票か、ホームページでの電子投票による市民投票を行い、優秀作品候補 10 点を選出しました。市民投票では、852 票を得ることができました。

【市役所パネル展示コーナー】



【知多公民館】

(R2.9.4～9.10)



優秀作品候補の 10 点から、上下水道事業経営審議会（R2.10.7）において、さらに優秀作品 3 点を選出し、その中から、最優秀作品を決定しました。

また、表彰式（R2.11.2）の様子について、新聞掲載及びケーブルテレビにて放映いただきました。

【優秀作品表彰式（リモート）】



【最優秀作品表彰式】



(3) 「落ちない」ふたで合格祈願！サクラ咲く🌸落ちないマンホールマスク販売



「うすい&おすい」を幅広くPRし、公共下水道事業への関心を高めるため、マンホールのふたが落ちないように作られていること、市の汚水マンホールのふたが市の花であるサクラをデザインされたものであること、「うすい&おすい」が約500倍の競争率を勝ち抜いて決定さ

れたものであることに験を担ぎ、新しい生活様式に必需品となったマスクを使用し、受験生への応援グッズを作製、販売しました。また、書のまちでもある当市らしく、サクラ柄のマンホールを御朱印に見立て、職員の自筆により『合格祈願』と認^{したた}め、マスクに同封しました。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、窓口での混雑を避けるため、往復はがき若しくは電子申請システムによるインターネット申込みの予約販売（予約期間 R2.11.9～11.30）としましたが、300枚が完売となりました。

4 具体的効果等

上記の取組に関するホームページの閲覧数は約16,800件で、非常に多くの方に見ていただくことができました。

また、「うすい&おすい」デザインの市民投票を、市役所での『下水道の日』に伴う下水道に関するパネル展示等と応募作品を併設し行ったことにより、例年より多くの方に『下水道の日』やパネルに示した下水道の役割等についても関心を持っていただくことができました。

使用料改定については、広報誌やホームページに加えて、新聞、商工会議所ニュース、検針票裏面、「うすい&おすい」を載せた検針票同封チラシにより周知を図りましたが、改定に関するお問い合わせは R3.5月末時点で40件と、想定より少なくなっています。

現在、「うすい&おすい」については、ホームページを始め、使用料改定チラシ、浄化センターパンフレット、職員の名札や名刺に使用しているところですが、老若男女問わず、下水道に親しみと関心を持ってもらうため、今後も、さまざまな広報戦略に活用していきたいと考えています。